

まごころだより

2019. 8月号

春先に福祉専門学校から学生の実習受け入れの依頼がありました。過去にも受入れの実績があったもので快く承諾しました。内容を聞いていくとこの度の実習生は外国の学生だと告げられ一瞬ちゅうちょしましたが、最近の外国人労働者受け入れ傾向の報道や、各自治体も取組に力をいれていることも知っていましたし、まごころ的にはどなたでも受け入れる。誰も拒みませんので改めて承諾しました。むしろ、利用者の方には良い刺激になるかもしれないと、楽しみにもなりました。このことを職員にもつたえ協力を頼みましたが誰一人反対も心配もする人はなく、むしろやっぱり「まごころ」だだと確信しました。実習の日まではだいぶ期間があったのですが、職員からは実習が何時からだの、どこの国の人なのか、どんな人なのかとか、だいぶ興味があるのだと感じました。福祉の人手不足等の現状が外国の人に期待を持たれている流れの中で、不安やら心配があるのではないかと思います。



そして実習が始まりました。彼は挨拶と自己紹介を聞き取りやすい言葉できちっとされました。それにスケジュールの組み立てもしてきており、実行したい気持ちも伝える事ができました。ここに至るまで沢山の困難があったらと思うと思います。業務的な介助テクニックは繰り返し練習してきただろうし基本となる介護の勉強も続けてきたはずですが。しかしその学習は「日本語」でしか学び取る事ができないことで、相当な苦労があったのではないのでしょうか。確かに実習中も私達が理解しにくい言葉もありましたし、逆に私たちが彼にとって理解しにくい言葉をつかってしまいました。なので実習生も職員もわかり合えるようお互いに自分の中で適切な表現を探りながらの会話になっていたかと思えます。一方、

利用者は普段通りの口調で話していましたが、実習生はその会話で利用者の言わんとすることや、その方の特徴をつかみ取ろうと笑顔で対応する中に真剣さを感じ、その姿勢には私たちはとても感銘を受けました。私たち自体、彼のように真剣に利用者に向き合っているだろうか、繰り返される毎日の対応に緩みがなかつたらどうか。実習生が来てくれたおかげで、自分たちの介護に対する基本に振り返ることができた部分もあったのではないのでしょうか。

実習期間は一週間で終わりです。この期間で実習生はどんなことを学んでくれたのでしょうか。彼の言葉からは「楽しかった」「うれしかった」「みんな優しくかった」の喜びの表現が多く、難しいことが沢山あったけれども彼にとってはそれが「楽しかった」のだと言いました。ここに来るまでの実習では楽しいということはあまりなくて、毎日がプレッシャーだったと言います。この実習の目的、課題は「利用者とコミュニケー



ションをとる」でした。彼はその課題を確実に実践したと思います。短い期間の中で学び取ろうとする姿勢は感動しましたし、なおかつ外国からの留学でそれも介護の勉強を選らばれたのは尊敬に値するものだと思います。将来も介護の仕事に就きたいと言っていました。彼には大きな課題があります。それは「言葉」です。彼は日本に来てから数年しかたっていない。学校に入る前に日本語学校に通っていたと言っていました。なかなか上達できなくて苦しんできたようです。読み書きも時間を惜しんで取組んできたようですが、まだまだダメだと自分では思っているようでした。しかし私達にしてみれば彼が伝えんとすることが理解できました。伝えようとするのがたどたどしくても、その表情とか手振り身振りから計り知れたからです。彼にとってはそれがもどかしくて仕方がないようです。言葉の練習をしたくても、相手になってくれる友達が少なくて困っているようなことも言っていました。遠い日本に来て仕事につながる技術を習得しようと一生懸命に努力しているのに、条件が整わず苦労を余儀なくされている状況を聞くと身につまされてしまいます。感情移入していると思われるかもしれませんが、「勉強をしたい」「勉強したことを役立てたい」「上手く確実に伝えたい」そんな一生懸命な姿勢を見ていると思いを遂げて欲しい、頑張ってくださいと言う気持ちにもなるかと思います。おそらく彼にはこの先もっと辛いことや苦しいことがある事でしょう。大きなハンデキャップがあるかも知れませんが、くじけずに信念を貫いて欲しいと思います。



8月行事の予定

- | | | |
|-----|-----|----------------|
| 7日 | (水) | 小物づくり |
| 11日 | (金) | 林夫妻の歌謡ショー |
| 19日 | (月) | 食事会 |
| 20日 | (火) | ハーモニカ伴奏で歌いましょう |
| 24日 | (土) | ピアノ伴奏と一緒に唄を |
| 30日 | (金) | 納涼祭 |